



Title	茂山忠三郎家蔵『翁秘書』
Author(s)	茂山, 恭仁子
Citation	演劇学論叢. 2010, 11, p. 462-469
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97472
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

茂山忠三郎家蔵『翁秘書』

茂山 恭仁子

ここに紹介するのは茂山忠三郎家蔵の翁伝書二点のうちの一点である。同家に所蔵される翁伝書二点のうち、一つは「翁秘書」(巻子、一巻)、もう一つは『翁口伝極秘書抜』(巻子、一巻)である。この二点の巻子本は金剛右京氏(明治五年～昭和十一年)が所蔵していたものであったが、右京夫人より三世茂山忠三郎良一が形見として譲り受けたものである。右京氏は昭和十一年に逝去されたが、その納棺の際、立ち会った能楽師に伝來の伝書が形見として渡され、それ以外の坂戸金剛家に伝わる書はすべて棺の中に入れられて焼失したという。

金剛右京氏と茂山忠三郎家は深い縁がある。一世茂山忠三郎良豊は右京氏の仲人をし、また右京氏は三世茂山忠三郎良一の仲人をしたという関係にあり、茂山家の過去帳には親族の並びに右京氏の名が入れられており、現忠三郎によれば、跡継ぎに恵まれなかつた右京氏から金剛家へ養子に入らないかという話があつたが、その時、三世忠三郎良一は、子息の良介(昭和二十年に戦死)と偉一(現忠三郎)の兄弟で狂言をさせたいという

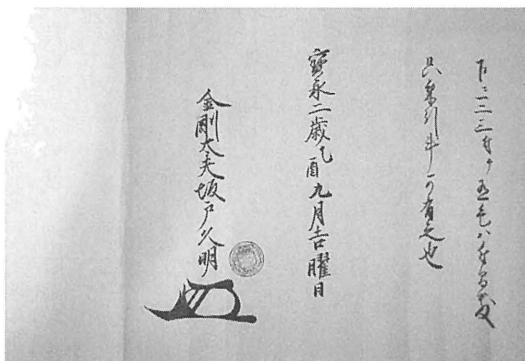
想いから、丁重にお断りをしたという。この他にも生前の右京氏から三世忠三郎がゆずられたものに、「三番三」を舞う時に用いる「腰板」がある。これは普通は木でできているが、右京氏から譲られたものは皮でできており、現忠三郎によれば、非常に使い安い板だと言う。

ここに紹介する「翁秘書」は天地二〇・五センチ、長さ七三五センチ、表紙は草花模様の布表紙。料紙は鳥子紙の美本である。題簽なし。内題は「翁秘書」。書体は全体的に楷書に近い読みやすい字で、末尾に「宝永二歳^貞九月吉曜日／金剛太夫坂戸久明」と金剛大夫久明の署名がある。金剛大夫久明は『重修猿楽伝記』によると、正徳五年(一七一五)の没で、享年は不明。

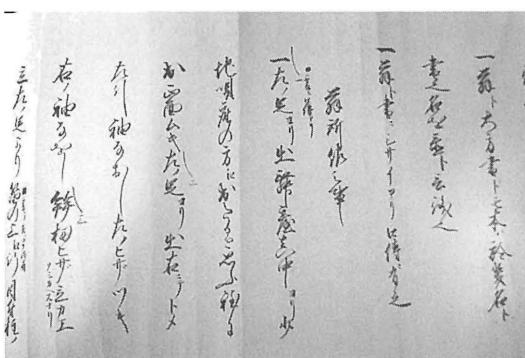
この奥書の署名と本文の文字は同筆であり、本文も金剛大夫久明の自筆と認められる。もう一つの翁伝書は「文野長命久敦」の署名があるものだが(長命久敦は南山城を拠点にしていた金剛座の役者らしい)、これについては別途紹介の機会を持ちたいと思う。

この『翁秘書』には翁が演じられる際の作法が詳細に記されている。その内容を本書の見出しで記すと、「翁秘書」「翁之次第」「極秘書」「翁舞の内」「鈴之事」「風流之事」「開口之事」「翁所作之事」「太夫後見之事」となる。

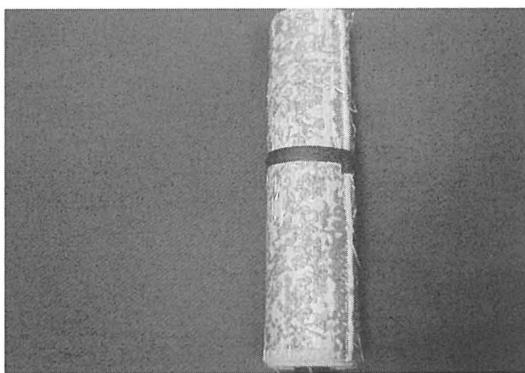
このうちの「翁舞の内」には、翁舞の足拍子を「天地人」の三才で説明する神道吉田家の翁秘説が認められる。吉田家の翁秘説は江戸時代に観世・宝生・喜多の三流の役者たちが伝授を受けており、その秘説は金剛流の役者にも影響を及ぼしている



『翁秘書』 奥書



『翁秘書』「翁所作之事」



『翁秘書』

ことが指摘されていたが（天野文雄氏『翁猿楽研究』）、本書は金剛大夫の自筆であり、本書によつて吉田家の翁秘説が金剛にも及んでいたことが確実になつたと言える。

なお、天理図書館蔵『翁大事御相伝人數書』によると、紀州徳川家の家臣で能役者でもあつた徳田藤左衛門隣忠は宝永二年（一七〇五）仲夏に、吉田家から「翁の大事」を伝授されているが、本書の奥書年記はその四ヶ月後である点が注意される。徳田隣忠はまず渋谷道修を師としたが、のちに金剛大夫久明を師とし

てゐるから『御世話筋秘曲』、久明の筆になる本書に吉田家の翁秘説の投影があるのは、徳田隣忠から仕入れた知識によつて、その可能性もある。以上のように、本書は吉田家の翁秘説が金剛流にも及んでいたことを確実にする資料であり、江戸後期以後の金剛家の翁秘説を伝える点で貴重な資料と言えよう。また、冒頭の『翁』上演前の故事や開口についての記事も資料として貴重なものと言える。

〔凡例〕

- 一、翻刻は基本的に底本に忠実であることを旨としたが、読解の便を考慮して、適宜、句読点、返り点等を付した。
- 一、本文中の旧字体や異字体は新字体に改めた。
- 一、本文中には「口伝」を「口イ」としている箇所があるが、これはすべて「口伝」とした。
- 一、本文中の「一（一四十五）」とある部分は朱書である。また、これ以外には朱筆の箇所はない。

翁秘書

- 一、先當日早旦行水。 入レ塩。
- 一、着装束淨衣、加持咒文。 口伝。
- 一、手水之咒文。 口伝。

一、御面箱置所。

北方に設レ机^机、南向^上奉^レ安^レ置之。狂言置^レ之。兼而箱之中^仁八寸太麻^於納置取^レ之、払^二我身^一於^レ。次千歳、脇、狂言共^仁太夫^二以^ニ太麻^一於^レ。

払之咒文。

口伝。

陰日咒文。

口伝。

一、件祓串^於取^レ、払^二御面箱^一。箱^仁四手有。今^ハ不^レ附^レ之。

一、神供、神酒備^レ之。以^二祓串^於払^一之。

神供。

千歳備^レ之。

神供品々。

口伝也。

神酒。脇備^レ之。

神酒、御灯、瓶子口等口伝有。

一、神供咒文。

口伝。

一、神酒咒文。

口伝。

右頂戴之節、品有^レ之也。

今ハ

一、三宝^ニ熨斗。

神前

一、三宝^ニ三寸洗米。奉^レ備、幕掛リ前^ニ頂戴^{スル}。尤^テ熨

斗モ同断。

一、手向太麻。

口伝。

一、鉢持扇咒文。

口伝。

一、護神身法^{此蓋子細有}。

口伝。

一、神靈招請之太事。口伝。

一、十宝内縛印此卷子細有。口伝。

一、五臟安寧加持。口伝。

一、天神地神同體乃觀念。口伝。

一、幕懸時岩戸乃印。口伝。

一、同、陰陽乃足踏アリ。口伝。

一、橋掛アリ太事。口伝。

一、着座坐天神樂之太事。口伝。

一、心中祈念。口伝。

一、翁所作之事。口伝。

仕舞付之事也。口伝。

一、とうトウたらりタラリ文字之事。口伝。

一、三之哥咒文等。口伝。

一、翁帰志夫幕シマツ入アリ。口伝。

付翁帰り事。口伝。

一、神靈發遣大事。口伝。

一、内縛印明此卷子細有。口伝。

一、二日メ、三日メ、四日メ、

千歳ウタイヤウカワル。同音モ同断。四日、セリフ田哥

ノ事。笛座着共ニカワル。口伝。

一、十二月往来。口伝。

翁之次第

天太玉命 千歳

印相之時、扇腰サス。印相給アリ、扇右ハシ手ハンドトリ、左シラウ

ツシ、又右ハシ如シテ常モツ。

天兒屋根命

天鉢女命 三番二

是アリ四宮神ト云。

手刀雄命

笛吹大明神 笛 脇

高嶋明神

源太夫神 小鼓

熱田大明神 大鼓

八百万神 太鼓

一、父尉ハシメ白鬚大明神。地唄後見

一、延命冠者ハシメ西宮太神宮。復云。

春日三之御殿

武持神 千歳

春日三之御殿 翁也

住吉大明神 三番二

笛吹大明神 笛

蛙子 小鼓

駿河浅間

源太夫神

八百万神

如斯モ云。

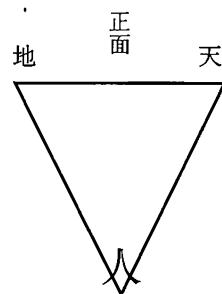
大鼓

太鼓

地唄後見

極秘書

翁舞の内



天地人三才の拍子、陰陽等秘事有^レ之。口伝^{シテ}云々。

一、翁ハ惣して神代神樂の作法也。むかし日神岩戸に引籠りたまふ時、諸神しう会して神わざ有しに、天細女命か舞し給ふ。是則根元也。神代のむかし日神納受あり。いわんや下界の神にをいてをや。參ハ口伝ニテリ。

一、第一翁^ト云々

太玉神 千歳振也。

第二

天兒屋根命 神道翁也。

第三

天鉢女命 三番申楽也。

天のうすめ鈴をふり、神樂を舞たまふ。この時岩戸をおしひらき給ふ。その時しよ神、あわれ、あなたおもしろ、あなたのし、あなさやけ、ほけ^ト。

是神樂の根元、神道ちやう^トの極秘也。口伝重^シ有。

三番申楽ハ 興玉神也。

一、神代じき今今は鈴鈴あらす。榦竹榦竹葉葉振玉振玉也。依テ鈴鈴柄柄呂呂也。つ、ミ、中に榦竹榦竹葉葉入入也。数其儀テ口口伝也。今ハ不包也。

再鈴鈴伝テ口口伝授有。

一、おさへくおう。此儀口伝也。

復云。

天神地祇人神ヲ祝祭り祈念心持アリ。

初日ハ天神、二日ハ地神、三日ハ人神也。故ニ初日ハ千秋万歳ヲ云。

天の如長久なる心也。二日田うヘの事ヲ云。地德ヲ祝心也。

三日子孫繁昌ヲ事ヲ云。人神ヲ祝祭心也。何茂陰陽ヲ表、天地

人ノ三才ヲ備タルヨリテ神明の内證ヲ叶。爰ヲ以祈念之心持、感心極秘也。

風流之事

一、天神地祇感應したまふ故ニ万物ヲ精靈顯レ出テ舞かなテ奉レ祝心也。能ハ神樂より出テたり。神樂の根元ハ前ニ如レ書岩戸の前の作法也。天地の有情非情共ニ目出度事なれハ顯ハ出テ奉レ祝心也。物の精靈出テ能ヲ成シ唄かなツるは風流おもしろき事となれり。

日伝承シテ

翁所作之事

一、左足ヨリ出テ舞台真中ヨリ少地唄座ヲ方江出タると思ふ程に出、正面ムキ、左足ヨリ出、右ニテトメ、左引。袖ヲおし左ノヒザツキ、右ノ袖ヲをし、拵ハ立カ工立、左足ヨリ出テ正面方江向ハ、左足ヨリ足右ノ方江スペラスニ心トクト下ニ居ル。尤、脇正面方向ヘし。千歳御面箱ヲ置ク角カケテ置ガルヤウニコノムベシ。拵ハ千歳座ニツキ、三番笛ヲ三仕手柱内江入シ。笛大小共ニ座シ着ス。笛座ツキ吹シ。小鼓打ヲ

一、脇勤レ之。何にても脇能尤置鼓也。名乗ノ前ニ有レ之。古來ハ自分ニ作テ勤シ事也。今ハ御前御能之節、開口云、被ハ仰付テ勤シ事也。

古來ノ事也。大なり作テ脇

一、自ニ懷中ニ太麻袋開口出レシ之、脇ニ渡ス。依テ一氣ヲ開ル、云ハ開口一可レ秘々々々。

脇請取、開口一氣開ルマテ黙ス。口伝云ハ云。

一、四日ハ初日ニカエルト。

乍レ去テ四日ハ之事具ニ有レ之ハ帰ル云ハ大方ノ事ニシテ品有レシ之ヲ云ハ儀也。

一、翁ト書シサイアリ。口伝有レ之。

一、翁ト書シモ本ハ於幾名ト書也。名を置ト云ハ儀也。

ロシテ、トウ／＼ト唄。千歳角トル時、扇下置、面ヲ両手ニテトリ、ヒボトキ左手持、右ノ手ニテ袋ヲトリ、箱ノフタニヲキカクル也。尤、ヒボ後見ムスブ。「座シテ」ト箱ニ両手カケ、

左方江ヨセ、「マイロウ」ト立テ、右ノアシヨリ出扇開。大小前江行キ、正面ニテ両手合せ、尤、正面ムク。扱手ヲノケ扇

ロクニ立テアクル。「千早振」トウタフ。「ソヨヤ」ト左右ノゴトクアト江シテタツハイ。「千年の鶴」ト唄、「アリワラヤ」ト右アシヨリ右江ウケテ左江廻り、シテ柱ノキワニテシカケノヤウニシテ拍子ニ「アレハ」トヒラク。正面江左右ノコトクシテ出、サシシトメノゴトクメコシカメ、扇ニテウケノリニ、扱立、

「イヤイヤハホ」ト出。尤、左ノ足ヨリ目付柱ノ方法出、
「イヤイヤハホ」ト留拍子三、是迄出。足數口伝アリ。扱、

大臣柱ノ方江行、右江出、右ニテトメ拍子三、是迄。足數口伝

アリ。是ヨリカマワス左江廻り、左右ノヤウニシテ出、角江出、

左袖かつき、扇面の方江よせ、右江廻り、角ニテ左ノ袖マキ、

スミトルヤウニシテ左江廻り、大小ノ前江左右ノコトク跡江シテ、コシカメ、扇下にてウケ、拍子三、扱アカリ、千

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

秋万歳」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

歳樂」トウタフ。「万歳樂」ト左江廻り、両手アワセ、「万

タツホ、ホ」ニアワセシテ柱ノキワマテアワセ、右ニテトメ、是ヨリカマワス樂ヤ江入也。

太夫後見之事

一、太鼓ノアトヨリ出、笛上江行。太夫、面カクル時ヒホムスブ。太夫立テ後ニ面箱フタトリ、鈴取出、鈴ノ方ヲ持、千歳江渡。黒色取出、地唄ヨリ取次、後見座江渡。扱もとのことくふたを置、太夫面箱ノ方江來ル時見合、能所江ナヲスベシ。太夫樂や江入ト前、後見ハ切戸口ヨリ入ヘし。アトノ後見、鈴ノ段過テ面箱シマイ、切戸口ヨリ持テ入ヘし。

一、黒星印シ

一、朱ノ印シ

一、数八ツアリ。■外如斯シル口伝ニアリ。

一、最要中臣祓

一、翁勤朝、可相勤也。如レ此趣致伝受、以レ略可勤之也。

波羅伊玉意

喜余目出玉

一、猿樂云事、猿女君、名ヨリコレ。委ハ口伝アリ。

右、翁秘書、金剛代々家伝、雖為「極秘」、依為「厚望」令
相伝書写贈之候。毛頭他見無用。努力おろそかに不可レ被レ
致者也。

年号月日

名判

誰殿

如レ斯認可レ贈。努力おろそかに不可レ伝。又仕舞付之内朱引
之下ニ一二三付テ有。是ハ付間敷、只朱引斗可レ有レ之也。

宝永二歳^{乙酉}九月吉曜日

金剛太夫坂戸久明 [印] [花押]